

福岡市都市交通基本計画の骨子案について（報告）

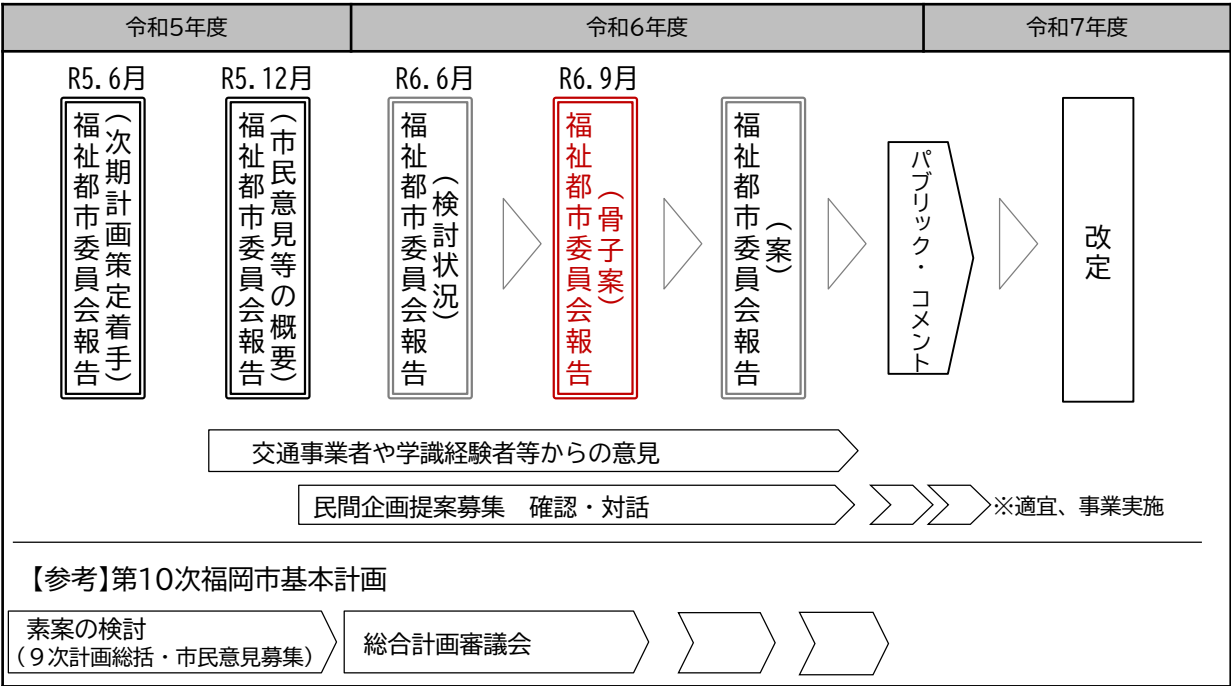
1. 報告の趣旨	・・・ 1 頁
2. 骨子案について	・・・ 1 頁
3. 今後の進め方	・・・ 9 頁

【別添】参考資料

福岡市都市交通基本計画の骨子案について

1. 報告の趣旨

本市交通政策の基本的指針となる「都市交通基本計画」の改定については、上位計画である福岡市基本計画の検討と連携し、市民や議会、有識者、交通事業者等の意見を伺いながら検討を進めていくこととしており、今回、骨子案について報告するもの。

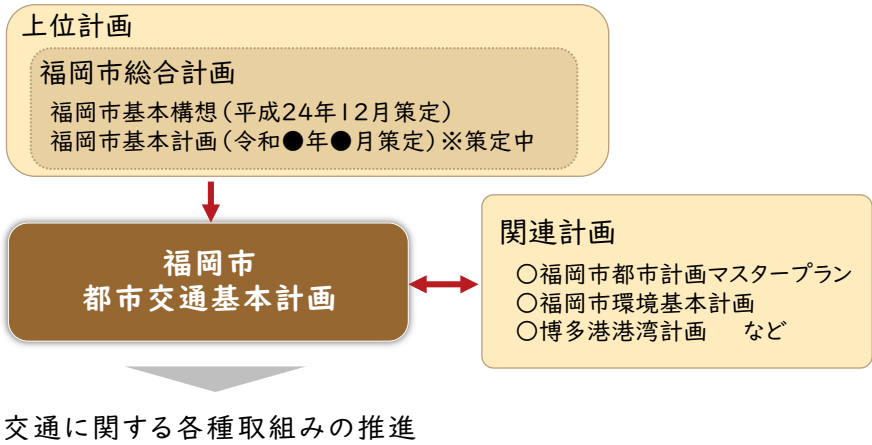


2. 骨子案について

1. 計画の概要

■位置づけ・役割

上位計画である福岡市基本計画の内容を踏まえた交通分野における基本理念や目標像を示すとともに、交通に関する取組みを進めていくにあたっての方針や主な施策を体系的にまとめた本市交通政策の基本的指針として活用するもの。



■目標年次

令和16(2034)年度(上位計画である第10次福岡市基本計画と同じ)

第10次福岡市基本計画の検討状況

分野別目標（交通関連）

<目標3> 地域の人々がつながり、支え合い、安全・安心に暮らしている

施策3-2 生活の利便性が確保された地域のまちづくり

- ・区役所や、地域コミュニティ活動の場として活用されている公民館、市民センター、地域交流センターなど、公共施設の充実・機能強化や多様な施設間の連携を図るとともに、持続可能な生活交通の確保や買い物支援に取り組むなど、それぞれが住み慣れた地域における生活の利便性向上に取り組めます。

<目標6> 都市機能が充実し、多くの人や企業から選ばれている

施策6-3 公共交通を主軸とした持続可能な総合交通体系の構築

- ・鉄道や幹線道路など、市民や来訪者の円滑な移動を支える交通ネットワークの充実・強化を図るとともに、公共交通や自転車の利用を促進するなど、市民・民間事業者・行政が連携し、分かりやすく使いやすい公共交通を主軸として、多様な交通手段が相互に連携した持続可能な総合交通体系を構築します。

空間構成目標（目指す姿）

福岡市の都市活力を牽引する「都心部」、都市の成長を推進する「魅力・活力創造拠点」、限界性のある街空間の中で市民生活が営まれる「広域拠点」「地域拠点」「日常生活圏」、豊かな自然環境を継承する「農山漁村地域」など、それぞれのエリアの個性や強みが生かされ、交通ネットワークにより移動の円滑性が確保された「コンパクトでコントラストのある都市」が実現しています。

<交通ネットワーク>

陸海空の広域交通ネットワークを備える都心部を中心に、それぞれの拠点間は公共交通機関でネットワークされ、拠点内やその周辺では身近な生活交通が確保されることで、多様な都市活動や市民生活を支える移動が円滑に行われています。

■都市空間構想図



2.目標像と方針

社会情勢の変化等

- ・高齢化の進展
- ・インバウンドなど交流人口の増加
- ・まちづくりの進展
- ・脱炭素社会に向けた社会的要請
- ・生活圏の移動に対するニーズの高まり
- ・交通基盤整備の進展
- ・公共交通の担い手の減少
- ・新たなモビリティサービスの活発化

(参考資料P1～P6)

市民からの意見

- ・鉄道のネットワークを、もっと充実させてほしい
- ・バス網の充実度が福岡市の良さを将来的にも維持してほしい
- ・拠点等へのアクセス強化
- ・都心部の渋滞緩和を
- ・将来車を運転しなくなった時、買い物や通院が心配
- ・再生可能エネルギーやEVの推進

(参考資料P7～8)

交通事業者や学識経験者等からの意見

- ・幹線交通、支線交通、ラストワンマイル交通の連携が重要
- ・公共交通の利用者減少や乗務員不足への対応を考慮していくべき
- ・高齢者の身近な移動を担うオンデマンド交通の継続を
- ・拠点へのアクセス強化が重要
- ・小規模な改良で最大限の効果を
- ・脱炭素社会の実現に向け、公共交通の更なる転換を

(参考資料P9～10)

など

計画改定の視点

- 持続可能な総合交通体系の構築
- 交通ネットワークの充実・強化
- 交流を支える都心部交通
- 市民の日常を支える生活交通の確保
- 脱炭素社会の実現に向けた交通環境づくり
- 誰もが安全安心して利用しやすい交通環境
- 災害に強い都市の形成

基本理念：『人に安心、まちに活力、地球にやさしい』
～コンパクトで持続可能なユニバーサル都市・福岡を支える交通～

目標像Ⅰ 公共交通を主軸とした持続可能な総合交通体系の構築

方針1：持続可能な総合交通体系の構築

方針2：市民や来街者にとって、分かりやすく使いやすい交通環境づくり

目標像Ⅱ 都市の魅力・活力を高める交通

方針3：コンパクトな都市を支える交通ネットワークの充実・強化

方針4：交流を支える都心部の交通環境づくり

目標像Ⅲ 市民の日常を支え、誰もが安全・安心な交通

方針5：地域の実情に応じた生活交通の確保

方針6：誰もが安全、安心な交通環境づくり

方針7：災害に強い交通体系の実現

目標像Ⅳ 環境にやさしい交通

方針8：環境にやさしい交通環境づくり

SUSTAINABLE GOALS DEVELOPMENT



それぞれの目標像・方針ごとに、目標像の実現に向けた「主な施策」を示す

交通に関する民間企画提案

本市の交通課題や交通利便性の向上につなげていくため、交通に関する民間企画提案を実施

- ・受付期間：R6.3.18～7.31
- ・提案件数：10件(参考資料P14～P17) 以下、関連する施策に「＊」を記載

目標像Ⅰ 公共交通を主軸とした持続可能な総合交通体系の構築

都市的な魅力と自然環境が調和したコンパクトな都市という強みを活かすとともに、市民生活を支え、来街者にも分かりやすく使いやすい交通体系づくりに取り組み、公共交通を主軸とし多様な交通手段が相互に連携した持続可能な総合交通体系の構築を目指す。

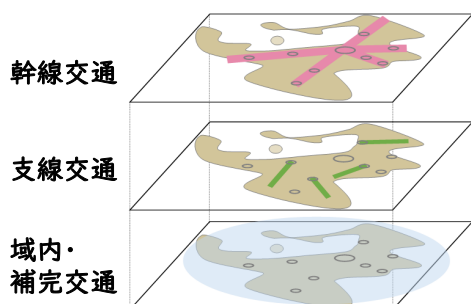
方針Ⅰ 持続可能な総合交通体系の構築

- ◆担い手不足等により、公共交通の維持が課題となるなか、市民生活や都市活動を支えるため、大動脈である鉄道を軸とし、面的に広がるバスや、デマンド型交通、シェアリングモビリティなど、多様な交通モード（タクシー、渡船、マイカー、自転車、徒歩含む）が、特性に応じた機能分担や相互連携により、全体で一つのネットワークとして機能する総合交通体系の構築に取り組む。

<主な施策>

- 持続可能で効率的な公共交通ネットワークの構築*
（幹線フィーダー化の推進、幹線軸への連節バス導入など）
- 交通結節機能の充実・強化*
- シェアリングモビリティの利活用*
- 新たなサービス・技術の利活用・検討（MaaS、自動運転など）
- 様々な関係者が連携した運転手不足への対応の推進 など

<機能分担イメージ>



役割	主な交通モード
・都市間や拠点間を結ぶネットワーク	・鉄道 ・バス(BRT等)
・幹線を補完するネットワーク	・バス ・渡船
・多様なニーズに対応 （個別輸送や面的需要等に対応）	・オンデマンド交通 ・タクシー ・シェアリングモビリティ

大量性
速達性

柔軟性

方針Ⅱ 市民や来街者にとって、分かりやすく使いやすい交通環境づくり

- ◆市民や来街者が多様な移動手段によりシームレスで円滑に移動できる、分かりやすく使いやすい交通環境づくりに取り組むとともに、公共交通を主軸とした移動を促進する。

<主な施策>

- 公共交通の利便性向上と利用促進
利用環境の改善（車内混雑の緩和、バス停上屋・ベンチの設置等）/ キャッシュレス推進 / パーク・アンド・ライドの推進* / モビリティ・マネジメントの推進（利用者等への働きかけ）
- 交通案内や受入環境の充実・強化
- 自転車や徒歩で移動しやすい交通環境づくり など

目標像Ⅱ 都市の魅力・活力を高める交通

都市的な魅力と自然環境が調和したコンパクトな都市に磨きをかけるため、エリアの個性や強みが活かされた拠点への交通ネットワークの充実・強化や、多くの人や物が集中し交流する都心部を支える交通環境づくりに取り組み、都市の魅力・活力を高める交通を目指す。

方針3 コンパクトな都市を支える交通ネットワークの充実・強化

- ◆ 交通基盤の整備が進展するなか、既存ストックの活用も図りながら、拠点へのアクセス強化に取り組むとともに、広域的な人流・物流を支えるため放射環状型の幹線道路ネットワークの形成等に取り組む。

<主な施策>

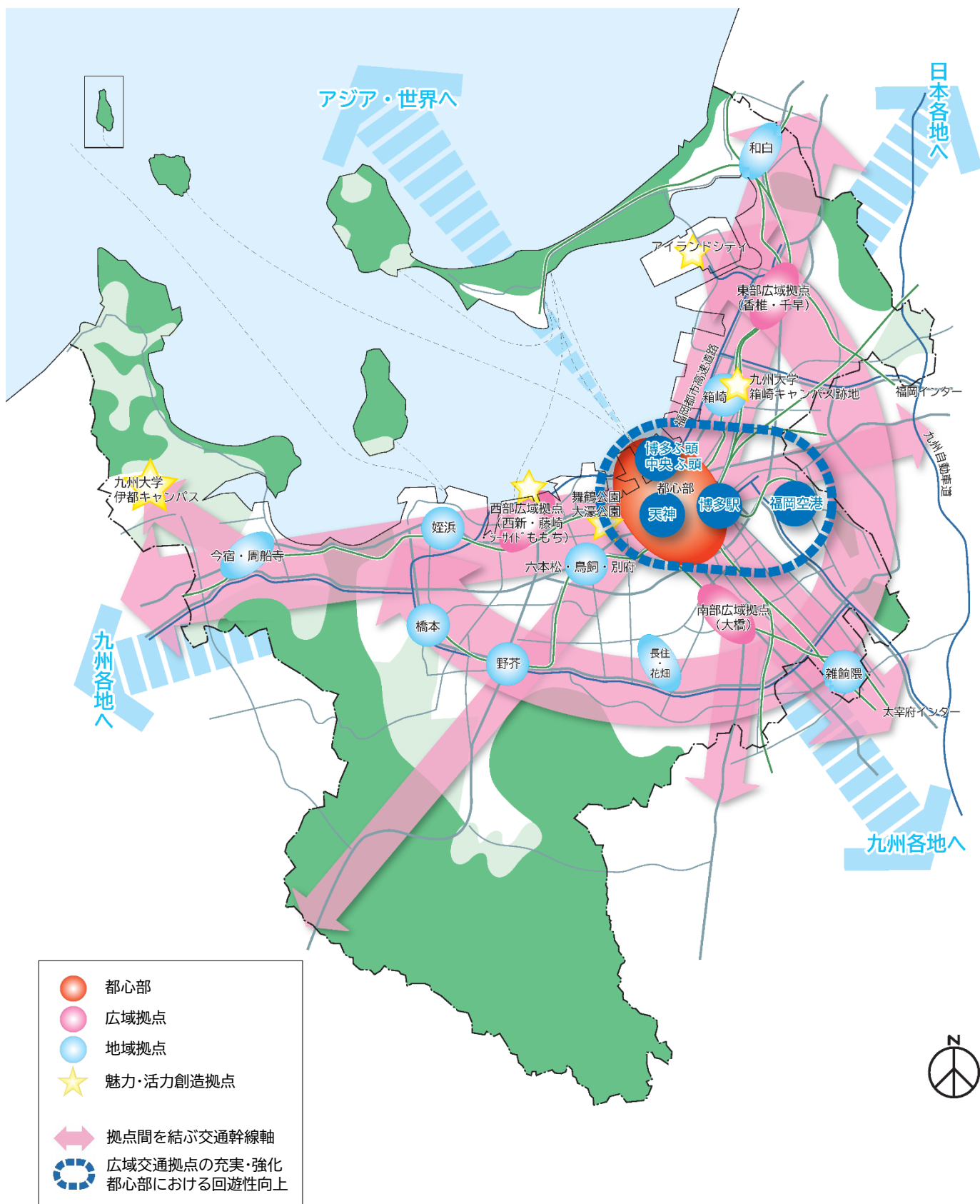
- 拠点へのアクセス強化
- 広域交通拠点等における交通機能の強化
- 幹線道路ネットワークの形成
- 道路交通の円滑化
 - ・ ボトルネック交差点の改良、バス停カット整備 など
 - ・ 鉄道高架化の検討<中・長期的検討課題>
- 自動車専用道路におけるランプやジャンクションの設置・改良の検討<中・長期的検討課題>
- 自然などの地域資源等への観光周遊を促す交通環境づくり など

<拠点へのアクセス強化等の取組みの方向性>

拠点	取組みの方向性
都心部	<p>都市の活力を牽引する都心拠点間の連携強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (都)天神通線、那の津通り6車線化の整備 <中・長期的検討課題> ・ 都心拠点間での検討*
広域交通拠点	<p>広域的な人流・物流を支える広域交通拠点へのアクセス強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡空港方面への都市高速道路延伸の整備 ・ 国道3号博多バイパス立体化 ・ 福岡空港、博多港の機能の充実・強化や利便性向上 <中・長期的検討課題> ・ 福岡空港および後背地への検討
魅力・活力創造拠点	<p>都市の成長を推進する魅力・活力創造拠点へのアクセス強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドームへのアクセス強化の検討* ・ 九州大学伊都キャンパスへのアクセス強化(連節バス導入)の検討* ・ 交通結節機能強化(箱崎地区、九大学研都市駅)* <中・長期的検討課題> ・ シーサイドもち、アイランドシティ、九州大学伊都キャンパスへの検討
広域拠点 地域拠点	<p>生活圏の中心である広域拠点や地域拠点のアクセス強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (都)野間屋形原線、(都)国道3号線の整備 <中・長期的検討課題> ・ 地下鉄箱崎線と西鉄貝塚線の直通運転化の検討 ・ 姪浜一橋本間、南部地域での検討
広域連携	<p>福岡都市圏をはじめとした広域的な連携強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地下鉄空港線とJR福北ゆたか線の接続の検討 【福岡県交通ビジョン2022】 ・ 福岡東環状道路、北九州福岡道路の検討 【福岡県新広域道路交通計画】

〔 拠点等へのアクセス強化に係る概略試算では、現時点での採算性や費用対効果が低い結果となったが、アクセスを強化することは重要であるため、中・長期的検討課題として様々な方策を幅広く検討していく。 〕

■拠点間を結ぶ交通幹線軸ネットワーク図



方針4 交流を支える都心部の交通環境づくり

- ◆都心部のまちづくりの進展とともに、**交流人口の増加**が見込まれることから、都心部内の道路交通混雑の緩和を図るため、**公共交通の利便性向上や自動車流入の抑制等**に取り組むとともに、都心拠点間の公共交通の充実・強化や多様な移動手段の確保による交通環境の充実や回遊性の向上に取り組む。

<主な施策>

- | | |
|--|---|
| ○都心拠点間のアクセス強化
・天神通線の延伸、那の津通り6車線化
・都心拠点間の連携強化*＜中・長期的検討課題＞ | ○道路交通の円滑化
・駐車場の満空等の情報提供
・物流交通の円滑化 |
| ○公共交通の利便性向上と利用促進
・都心循環BRTの利用促進
・利用環境の改善【再掲】 | ○新たなサービス・技術の利活用・検討【再掲】
(MaaS、自動運転等) |
| ○自動車流入の抑制
・パーク・アンド・ライドの推進*【再掲】
・フリンジパーキングの利用促進* | ○快適で高質な回遊空間の創出 など |

目標像Ⅲ 市民の日常を支え、誰もが安全・安心な交通

高齢化が進展し、生活圏での移動ニーズが高まるなか、地域特性に応じた**生活交通の確保**に取り組むとともに、**子どもから高齢者まですべての人にやさしい安全・安心な交通環境づくりや、災害に強い交通体系づくり**に取り組み、市民の日常を支え、誰もが安全・安心な交通を目指す。

方針5 地域の実情に応じた生活交通の確保

- ◆高齢化の進展や地域の実情などを踏まえ、市民・交通事業者・行政が共働し、日常生活を支える**持続可能な生活交通の確保**を図る。

<主な施策>

- | | |
|--|----|
| ○生活交通の維持・確保*
・バス路線の休廃止に伴う公共交通空白地における代替交通の確保
・公共交通が不便な地域における地域主体の取組みへの支援の強化 | など |
|--|----|

方針6 誰もが安全・安心な交通環境づくり

- ◆公共交通や道路のバリアフリー化を推進するとともに、**誰もが安全・安心に歩ける歩行空間の確保等**を進める。

<主な施策>

- | | | |
|--------------------|-------------|----|
| ○公共交通や道路のバリアフリー化促進 | ○安全・安心な道路整備 | など |
|--------------------|-------------|----|

方針7 災害に強い交通体系の実現

- ◆災害時における応急対策に必要な物資輸送や救助活動を確保し、**市民の安全・安心**を保つため、**災害に強い交通体系づくり**を進める。

<主な施策>

- | |
|--|
| ○災害に強い交通体系づくり（緊急輸送道路の整備、無電柱化の推進、狭あい道路の改善 など） |
|--|

目標像Ⅳ 環境にやさしい交通

地球規模での気候変動による影響が深刻化するなか、**脱炭素社会の実現**に向け、環境負荷の少ない公共交通や徒歩・自転車による移動の促進など、環境にやさしい交通を目指す。

方針8 環境にやさしい交通環境づくり

◆環境にやさしい公共交通や徒歩・自転車による移動を促進するなど、運輸部門からの温室効果ガス排出削減に向けた取組みを進める。

<主な施策>

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| ○公共交通や自動車の脱炭素化* | ○シェアリングモビリティの利活用*【再掲】 |
| ○公共交通の利便性向上と利用促進【再掲】 | ○道路交通の円滑化【再掲】 |
| ○自転車や徒歩で移動しやすい交通環境づくり【再掲】 | など |

3.成果指標の設定について

都市交通基本計画の改定については、市民や議会、有識者等からの意見を伺いながら検討を進めてきており、今回、目標像や方針、主な施策を案としてまとめているが、今後、成果指標についても、指標の分かりやすさやデータ収集の容易さ等も踏まえつつ、検討を進めていく。

<成果指標の設定(イメージ)>

目標像Ⅰ 公共交通を主軸とした持続可能な総合交通体系の構築

- <指標例>
- ・1日あたりの鉄道・バス乗車人員
 - ・鉄道やバスなどの公共交通が便利だと感じる市民の割合
 - ・自転車通行空間の整備延長
 - ・シェアサイクルの利活用状況
- など

目標像Ⅱ 都市の魅力・活力を高める交通

- <指標例>
- ・1日あたりの鉄道・バス乗車人員【再掲】
 - ・鉄道やバスなどの公共交通が便利だと感じる市民の割合【再掲】
 - ・都市計画道路の整備率
 - ・都心部の主要な幹線道路の自動車流入台数
- など

目標像Ⅲ 市民の日常を支え、誰もが安全・安心な交通

- <指標例>
- ・鉄道駅のバリアフリー化
 - ・新たな公共交通空白地の抑制
 - ・歩車分離率
 - ・無電柱化整備延長
- など

目標像Ⅳ 環境にやさしい交通

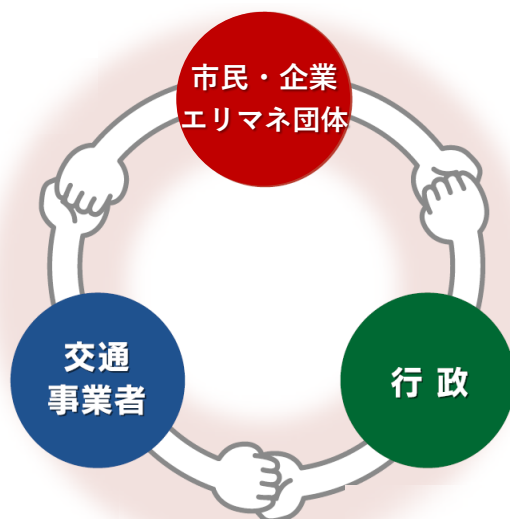
- <指標例>
- ・乗用車新車販売台数に占めるガソリン車の割合
 - ・1日あたりの鉄道・バス乗車人員【再掲】
- など

4. 施策の推進

施策の推進にあたっては、市民・企業やエリアマネジメント団体が積極的に関わり、各々の立場で考え、交通行動を変えていくとともに、各主体の協働・連携をさらに深め、関係者間の連携・共通認識のもと一体的に施策を推進していくことが重要。

成果指標の達成に向け交通事業者等と連携して取り組むため、施策の推進体制として関係者からなる協議会を設置し、施策等を取りまとめ（地域公共交通計画）、施策推進・進捗管理を行っていく。

また、交通課題の解決や交通利便性の向上のため、民間事業者の意欲的かつ実現性のある提案を取り入れながら、施策を推進していく。



3. 今後の進め方

令和7年度の改定に向け、今後とも、上位計画である第10次福岡市基本計画の検討等と連携し、市民や議会、有識者、交通事業者等の意見を踏まえながら、検討を進めていく。

